



No. 7

2006年7月発行

京都国際木版画協会
Kyoto International
Woodprint Association
売価 300円

President's Message

Promises of the Next Exhibition

Richard Steiner

It is a joy for me to announce that the next KIWA international competition will be held in early spring of 2007. See the box below for details. The venue will be the same as for Number 4, the Kyoto City Museum Annex.

Those of you who are familiar with KIWA's exhibition policy will know that we do not reject any artist who sends works to us; every one will have a print in the show. We do this because we strongly feel that a major international exhibition has to present all the work that serious printmakers are creating. The public can then judge for themselves what they like or do not like.

As KIWA's name and purpose grow in the public's eye, we are able to present through our exhibitions the most accurate representation of what is being created in contemporary woodblock printmaking on a world scale.

Looking forward to showing your latest prints in Kyoto in 2007.



会長の言葉

世界の木版画が京都にやってくる!

-第5回 KIWA 展にむけて-

リチャード・スタイナー

文字通り、世界の木版画が京都にやってくる第5回 KIWA 展の会期と会場が、以下のように決まりました。

KIWA 展についてはもうご承知の方も多いと思いますが、当展覧会の最もユニークな点は、応募された作品は一人につき必ず一点は展示するという方針をとっていることです。

私たちは、国際展というものにはさまざまなスタイルの作品を代表しているべきだと考えています。真剣な作家によって作られた作品はいずれも公の場で展示されるべきですし、その作品にアピール力があるかどうかは鑑賞者の判断にゆだねられるべきでしょう。

すでに素晴らしい作品が着々と届いています。KIWA の名前と目的が広く認知されるに従い、KIWA 展は世界で作られている現代木版画の動向をより正確に展示する場となってきています。

第5回 KIWA 展、どうぞご期待ください。

"不可能という文字は
KIWAの辞書にはない。"
"There is no word in
KIWA'S dictionary
for IMPOSSIBLE."



イラスト：大矢礼子
Illustration by Reiko Oya

The 5th KIWA Show

Time: March 27 (Tue.) – April 1 (Sun.), 2007

Venue: Kyoto City Museum Annex, 2F

Application Deadline: July 31, 2006

Entry Form and other information can be found on our homepage (www.kiwa.net).

第5回 KIWA 展

会期: 2007年3月27日(火) ~ 4月1日(日)

会場: 京都市立美術館 別館2階

募集要項、展覧会規約などは、ホームページ (www.kiwa.net) をご参照ください。ホームページはどんどん更新されていますので、適時ご確認ください。

目 次

1	【会長の言葉】世界の木版画が京都にやってくる！ 第5回 KIWA 展にむけて	リチャード・スタイナー
	特集：作品の保存方法	
3	その1： 版画作品を長持ちさせる方法	中野 修
6	その2： あなたの版画は大丈夫？	山岡 寛
11	連載 [木版画の世界] 異分野のアーティストによる木版画	ミヒャエル・デラ
15	事務室の声	山岸茂美
	・トピック：油とり紙プロジェクト	
16	2年間の取り組み：KIWA イベント	
18	KIWA 訪問者	
19	KIWA 寄贈作品	
20	編集後記	クロバー

Contents


1	【President's Message】Promises of the Next Exhibition	Richard Steiner
	This Issue's Special Theme: How to Preserve Our Paperwork Collection	
4	Part 1: Lengthening the Lifetime of Prints	Osamu Nakano
8	Part 2: Is Your Print Collection Safe?	Hiroshi Yamaoka
11	Series [<i>World of Prints</i>]	
	Rough Cuts in Odd Places	Michael Dörner
15	Voice of the Office	Shigemi Yamagishi
	・Topic : Facial Paper Print Project	
16	Review of KIWA Events	
18	Visitors to KIWA	
19	KIWA Library Additions	
20	Editorial	Qurobe

特 集 : 作 品 の 保 存 方 法


How to Preserve Our Paperwork Collection

This Issue's Special Theme

This issue of KIWA News is devoted mainly to one of the most important challenges facing all printmakers and the print-buying public: how to preserve our paperwork collections. Of all the man-made materials, paper could be the most fragile, the one least likely to survive the ages. But, there are ways to lengthen paper's lifetime, and KIWA invited two experts, Mr. Osamu Nakano and Mr. Hiroshi Yamaoka, in April and October, 2004, to tell us how. Both sessions were filled to capacity.

Mr. Nakano is a recognized leader in the paper-making and preserving fields; I have had the pleasure to hear him speak on two occasions. His KIWA talk covered historic aspects and laboratory testing. Mr. Yamaoka dealt with the practical methods available for paper art preservation. Please read these articles carefully. 

今回の KIWA ニュースは木版画家、木版画愛好家が直面する最も大きな問題 作品の保存方法 について特集します。人工の材料のなかで、紙は最も痛みやすく、保存しにくいものでしょう。けれどもその寿命を延ばす方法はあります。

KIWA は、2004年の春と秋に紙の専門家を二人お呼びし、勉強会を開きました。一人は当時、静岡の特種製紙株式会社で、研究・開発に従事されていた中野修氏。中野氏は、中性紙の研究についての第一人者で、酸性紙や中性紙の違い、紙の保存方法などについて、科学的なデータをベースに情熱的にお話してくださいました。もう一人は中野氏とも親しくされている京都の「資料保存工房」の山岡寛氏です。山岡氏は、中野氏の研究を踏まえ、私たちがどのように作品を保存したらいいのかという実践的なお話をしてくださいました。両氏のお話は、大変有意義で多くを学ばせていただきました。ここにその講演内容を紹介させていただきます。 

特集その1

版画作品を長持ちさせる方法： 2、3の提案

特種製紙株式会社 技術開発部 総合技術研究所

製紙技術研究所 担当部長（発表当時）

特種紙商事株式会社 顧問（現在） 中野 修

はじめに

本では1980年代に入った頃から、「酸性紙」の劣化が社会問題になりました。まずその対策として、国立国会図書館等の保存分野に携わる人々が中心となって、「中性紙」の普及活動と紙資料の劣化を抑制するための技術研究が、官民一体となって始められました。その結果、今日では民間出版物の80%、官公庁出版物の60%まで、中性紙が使用されるようになりました。この流れは版画分野にも及び、版画用紙や作品を額装するためのマット紙には中性紙が良いとの認識が定着し、ほとんどの版画用紙が中性紙になってきました。しかし、マット紙はというといまだ普及途上の段階にあると言えます。

中性紙と酸性紙の違い（酸性物質が劣化の主原因）

では何故、酸性紙と中性紙の違いが起こるのでしょうか。同じ原料繊維を使用しても、サイズ剤（インクの滲み止め剤）を繊維に定着させる定着剤の違いによって生じます。定着剤に硫酸アルミニウムを使用すると酸性紙（冷水抽出pH値6.5未満）になり、カチオン化澱粉と炭酸カルシウムの如きアルカリ性填料を併用すると中性紙（冷水抽出pH値6.5以上）になるのです。

この違いが紙の寿命に大きく影響します。紙が劣化する主な原因は、この硫酸アルミニウム中の硫酸イオンによるものです。つまり、硫酸イオンが紙に含まれる水分と反応して硫酸となり、紙を酸性化させ、変色させ、紙の繊維を破壊するので、最終的には硬くボロボロになるまで紙の劣化は進行します。

しかしながら、中性紙は空気中の酸性ガスや保存中に紙自体から発生する酸性物質、紙に含まれる硫酸などを中和するため、酸性紙の5～7倍（250～700年）の寿命を持っているのが特徴です。

ドーサ引きには注意しよう

版画用紙（木版、石版、銅版など）には、機械抄き紙と手漉き紙があります。使用される原料繊維の違いがあっても、両者の殆どのものに「ドーサ引き」が行われます。そして、その処理の度合いは「摺り師」の要求によって選択されます。単に膠だけを加工する場合と膠と明礬を加工する場合があります。一般的に明礬の使用量が多いほど滲み止め効果はアップしますが、明礬（硫酸アルミニウム・カリウム）の中の硫酸イオンに

よって、前述と同じ酸性劣化が起こるので、明礬の使用量には注意を要します。

ちなみに奈良時代の古文書の保存例でみると、明礬を多く使用したものは水滴を落としても浸透しませんが、明礬の少なものは徐々に浸透します。しかし、明礬の使用量が多いものほど、硬く脆くなって劣化は進んでいます。

和紙に対する信頼性

「和紙」は「洋紙」に比べ、強くて耐久性のあるものとして高い信頼性を得てきました。最近の市販和紙（25種）の性能を評価してみたところ、20年前に行った試験とほぼ同じ結果となりました。それによると、和紙原料以外の原料（パルプや麻）を使用したもの40%、洋紙でいう酸性紙に相当するpHを示すもの80%、強度低下の大きなもの60%、酸性紙と接触すると大きく変色するもの60%ということが確認され、必ずしも全てが品質の良いものばかりではないことが分かりました。しかし、和紙は製造上洋紙のように酸性紙にはならないはずなのに、和紙の中にもなぜ酸性を示し劣化し易いものがあるのかを再検討する必要があります。今のところ、できる限り素性のわかる品質の良い和紙を選択し、酸性紙のマットで作品を額装しないことが肝要です。

◆ 容器に入れて保存環境を改善しよう

中性紙が増えたとはいえ、一般的に使用されている紙や皆さんが所有されている大切な作品群も殆んど酸性紙であり、酸性を示す和紙もあります。

使用されている紙が酸性紙であっても中性紙であっても、紙の劣化は進行します。また、酸性紙であっても純度の高いパルプを使用した紙なら寿命も長く、保存環境が良ければ更に長持ちします。保存される作品が酸性紙であっても、長期にわたって良好な状態を維持させる環境を作り出すことが大切です。

そのためには、まず個々の作品を中性紙のファイルに挟み、中性紙の保存箱に入れて保存するだけでも、保存環境は一段と改善され安定化します。

湿度の変化を小さく穏やかにする管理や工夫が大切

さらに、作品の保存や展示環境における湿度管理が重要となります。劣化現象は一種の化学反応ですから、温度と湿度が高いほど作品は劣化します。しかし、温度が変わっても湿度が一定なら、作品の水分含有量は殆んど変わりません。水分含有量が増減すると作品は伸び縮みを繰り返すため劣化は促進され、反りや波打ちなど、外見上の変化も起こります。それ故、保存環境の湿度を一定に保つことができれば、酸性紙の作品であっても劣化の進行を抑制できます。

そこで、水分を吸ったり吐いたりして保存箱や額縁内の湿度を一定に調節する「調湿紙」の使用をお勧めします。古来より使用されてきた「桐」よりも優れた半永久的な調湿機能を持ち、作品の酸性化や変色に影響を及ぼす各種の汚染ガスを吸着除去できるので、全国の図書館、美術館、博物館等で広く普及してきています。

また、一般家庭にある完全密閉でない普通の保存箱やキャビネットの蓋裏に貼っても十分に効果を発揮するので、作品の劣化防止とカビ対策を手軽に行う方法として推奨できるものです。

おわりに
(版画制作と愛好家の皆さんへ)

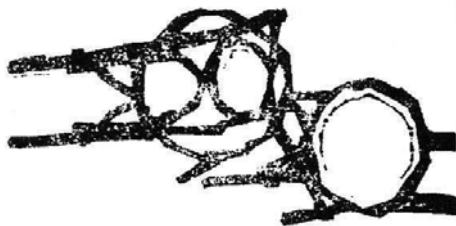
作品を制作される皆さんは、作品を残そうとか後世まで残るといふことをあまり考えないで、夢中になって制作する方が非常に多いと思われます。いざ気が付いてみると原画は人手にわたって、自分の手元にはない場合が多いと聞きます。これからは「ある期間は、良好な状態で残す」ということを念頭において、制作活動をして欲しいと思います。

また、作品を購入される場合、作品全体をチェックし(テープのしみ、損傷、変色、褪色、黄色い斑点、折れ目、汚れなど)画面の線に傷やムラがなく刷り上りが最高で最上質な紙を使用しているものを選ぶ必要があります。

さらに、家庭内における作品の展示や保存場所は、直射日光の当たる場所や台所付近の水周りおよび冷暖房の近くは避け、虫干しを兼ねて作品の状態を定期的にチェックし、大切な作品を何時までも楽しんで戴くことを希望します。☺



▲ Ms. Hirohata with Mr. Steiner introducing Mr. Nakano.



Part 1

Lengthening the Lifetime of Prints Through Preservation Techniques : A Few Suggestions

Osamu Nakano

Introduction

In the early 1980s, the deterioration of acid-sized paper became a subject of great public concern in Japan. Accordingly, neutral/alkaline-sized paper was introduced and its use strongly encouraged. At the same time, studies for lengthening the lifetime of paper documents were promoted by public and private organizations who were keenly concerned with paper preservation, such as the National Diet Library. As a result, up to 80% of the documents published in private sectors and 60% by public offices are now using this paper. This information has also spread among printmakers, and now it has become a standard for artists to use neutral/alkaline-sized paper for their work. Alas, regarding the matting material, people are still not yet concerned enough.

Difference between pH-neutral paper and acid-free or alkaline paper

What is the reason why there are acidic paper and acid-free or alkaline paper then? Even though the same fiber materials are employed for making paper, depending on the fixing agent used as a sizing, which stops the ink from running, some become acidic and some become pH-neutral. If aluminum sulfate is used as a fixer, the paper becomes acidic (the pH of an aqueous extract of the paper becomes less than 6.5) while when an alkaline filler, such as cationic starch or calcium carbonate is used, the paper becomes acid-free or alkaline (the pH of an aqueous extract of the paper becomes more than 6.5).

This affects tremendously the paper's lifetime. The main cause for paper deterioration is the ion contained in sulfuric aluminum. Sulfuric ion reacts to the water in the paper and produces sulfuric acid, which acidifies, discolors, and eventually destroys the fibers. This deterioration process continues until the paper hardens and crumbles. On the other hand, the paper with calcium carbonate filler absorbs acidic gases from the atmosphere and the sulfuric acid components of the paper, then neutralizes the acid materials. Therefore, it lasts 5-7 times longer than acidic paper (250 to 700 years).

Pay more attention to sizing

There are two kinds of paper for printmaking: machine-made and hand-made. Regardless of the mix of materials used, both kinds will most likely be sized before printing. The density of the sizing agent is decided by the printer's demands on the paper. Some printers use only gelatin and some use a mixture of gelatin and alum (aluminum sulfate and potassium).

特集その2

あなたの版画作品は大丈夫？保存のABC

あなたにもできる版画の活用的保存の実践的ポイント

有限会社 資料保存工房

代表取締役 山岡 寛

はじめに

「版画を保存するにはどうしたらいいのですか」最近人と話しているとよくこう質問されます。その度に私は「そうですね...」ととっさに答えられない自分に気がつかされます。それほど、一言で「版画の保存」について語ることは容易ではないのです。

実は版画の保存は「技術」だけではなく、取り組む「方針の決定」が必要不可欠です。その「方針」を「決定」しなければ「技術」を選択することはできません。つまり「保存ニーズ」をどうとらえるかということなのです。なぜ保存をするのか。予算はどれくらいか。どれくらいの状態をどれくらいの期間保つことを目標とするのか。取り扱う人はどのような人か。保存する場所はどのような環境か。活用（展示等）の頻度はどれくらいで、どのような環境におかれるのか...等々、いろいろなことを検討してゆかなければ妥当な方法を設定することは困難です。まずはこの点を押さえてゆく必要があります。

もう一つの最大の問題は、「完全なる保存」は存在しないということです。いくら理想的な環境に置いておいても版画は必ず少しずつ劣化してゆきます。理論上は環境をよくすることにより劣化の速度を遅らせることはできますが、「絶対」ということはありません。環境をよくするということは「保険」をかけておくようなものです。この点を把握していただきたく思います。

限られた範囲の中でいかに対応してゆくか

実際にはそれぞれの可能な範囲内にて保存処置を行ってゆくわけですが、おそらく殆どの場合、保存処置に当てられる予算や人員、時間等は理想通りにはいかないことが多いと思います。その場合、どうすればよいのでしょうか。

版画の保存に順位をつける

一つの効果的な方法は保存に優先順位を付けて、対処するということです。つまり、限られた予算を優先順位の高い版画に優先的に予算を配分するというやり方です。予算にメリハリをつけるという方法です。こうすることにより、全ての所蔵している版画作品を均等に護ることはできませんが、優先順位の高い数点に関しては十分なケアが可能になります。

どうやって優先順位をつけるのか

しかし、実際には多くの版画作品に保存の優先順位をつけてゆ

くことは難しいです。でも、たとえば地震や火事、水害といった時の緊急時に救出するというシチュエーションを考えてみてください。この時にどの版画作品を救いたいのかを想定して決定してゆくというのが判別しやすいように感じます。また、もし作者自身の作品であれば、これまで展覧会で発表したものや、代表的と思われるものに、コレクターであれば思い入れや購入価格順というのもよいかもしれません。

保存の3原則

版画の保存レベルを決定する要素として「使用材料」、「制作技法」、「保管環境」の3つがあります。それらのどれもが密接に保存に関わっているものですが、制作し終わった版画作品においてアプローチできるのは「保管環境」のみです。つまり私たちがいかに「版画の保管環境」を改善してゆかということが、「版画の保存性」を高める唯一の方法なのです。その為には版画の劣化について多少の知識が必要になります。

版画の劣化の種類

版画の劣化の種類は(A)物理的劣化、(B)化学的劣化、(C)その他の劣化、に分類できます。

(A)物理的劣化

物理的劣化は折れや破れなどのことで、取り扱いに注意することと厚紙等ではさんで置くことで防ぐことができます。また、化学的劣化は、光による変色や褪色、酸性化による黄変化と脆弱化、黴や不純物の混入による褐色斑点化にさらに分類できます。

(B)化学的劣化

1) 光による変色や褪色

光による変色や褪色は主に紫外線による影響が大きく、できるだけ光に当てないことが肝要です。展示の際には紫外線カット効果の高い硝子やアクリルを装着したフレームに入れ、窓や蛍光灯の近くには展示しないようにします。

2) 酸性化による黄変化と脆弱化

窒素酸化物や硫化酸化物等を代表とする大気汚染からの影響や、版画に直接接している酸性紙やベニヤ等からの酸の移行を原因とした酸性化により黄色に変色してしまい、次第に脆弱化して紙をボロボロにしてしまいます。対策としては、酸を発生する物質から版画を守るように遮断してくれる容器や包材で包むことです。

3) 黴や不純物の混入による褐色斑点化

褐色斑点化の原因は大きく2つに分けられます。一つは黴に起因するもので、もう一つは紙の中に含まれた鉄分や不純物によるものです。

・黴を起因とするもの

紙の表面には空気中に浮遊している各種の微生物の胞子や小さな塵埃が付着していて、黴が発芽します。黴は紙の表面に粒状に存在する塵埃を養分として、直径2~5mm程度の集

落を形成し、発育が停止したあとに褐色の斑点となります。黴はセルロース分解酵素を持ち、紙の強度を低下させます。また、有機酸を形成し、その酸が糖類を作り、アミノ酸との化学反応によって褐色のものとなるメノライジンが形成されたことによって、褐色斑点となります。対策としては湿度を55%前後に保つことと、埃から版画を守るために包材や容器に入れることです。

・不純物の混入によるもの

紙の中に含まれた鉄分が錆びたり、不純物が劣化することによって褐色の斑点ができます。対策としては上記と同じです。

(C) その他の劣化の種類

・粘着テープによる劣化

版画を固定する際にセロテープを使用したりすると黄変することがあります。対策としてはできるだけ、粘着テープを版画に直接固定することには使用しないことです。ポケットや水溶性糊と和紙によるヒンジで固定するのがよいでしょう。

・虫害

ゴキブリや紙魚など、虫による害も非常に多いです。対策としては定期的な点検と掃除。また、ここでも包材や容器に入れることが効果的です。

以上、物理的劣化と化学的劣化のどちらにも包材や容器に収納することが効果的であるということをご理解いただけましたでしょうか。それではいよいよ実践的な保存と活用の方法をご紹介します。



実践的に保管環境を改善する方法 ブックマット・ストレージ・システムの紹介

それでは実際に版画の保管環境を改善しながら展示などの活用をやすくする方法について簡単にご紹介いたします。

1. 仕分け

まずは版画のサイズや技法等、仕分けをし、できるだけ同じ大きさのものをそろえておきます。

2. フォルダーに挿入する

作品の種類やサイズにあわせてフォルダーをどの形式を採用するかを検討し、選択します。代表的なものには中性封筒、中性二つ折り簡易フォルダー、中性タトウ紙等があります。また、表面が傷つきやすい、デリケートな版画作品に関しては中性ティッシュで最初に保護してからフォルダー等に入れます。この際に登録ナンバーを記入しておくことで整理に役立ちます。

3. フォルダーを保存容器に収納する

いくつかのフォルダーをまとめて保存容器に収納します。この際も保存容器に番号等を記入しておけば整理に役立ちます。

4. 保存容器を収蔵棚へ収納する

保存容器にフォルダーに入った版画作品を収納したら収蔵棚に収納します。我が国では湿気対策から伝統的に木製の収蔵棚を使用しておりますが、中には酸性ガスを発生する場合があります、注意が必要です。私が推薦するのは金属メッシュ製のワイヤーシェルフと言われる種類のもので、これとクッションとして中性段ボールの板とさらには湿度の調節として調湿紙を各棚に敷くことにより保存性の高い収納ができます。

5. 展示の準備：ブックマットへの装着

展示が決まったら、版画作品を保存箱から取り出し、ブックマットに収納します。ブックマットに使用されるマットはできるだけ厚い方が、保存性が高くなります。また、ブックマットへの固定は必要に応じてポケットかヒンジで行います。

6. フレームへの装着

ブックマットに装着後、そのままフレームに装着します。

7. 展示後に保存容器へ

展示終了後、フレームからブックマットを取り外し、ブックマットごと、保存箱に収納します。

ポイント

以上の方法において、できるだけ箱やフレームのサイズを統一すれば、それぞれに互換性が確保でき、フレームの数を最小限に抑えられ、コストが浮きます。また、収納棚も整理し易くなり、最近ではパソコンのデータベース・ソフトと組み合わせで管理すれば効率も上がり、折れや破れの原因となる版画作品を取り出す回数が減る為に物理的劣化も防ぐことができ、効果的です。

以上、簡単にブックマット・ストレージ・システムについてご紹介いたしました。この方法は非常に簡便な為、是非一度お試しいただくことをお勧めいたします。



▲ 紙を保存するための道具を説明する山岡氏

最後に 「版画の保存？」

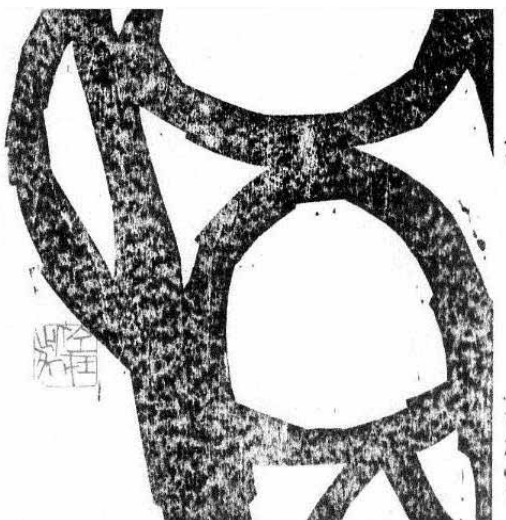
版画の保存というと殆どの方が何となくピンとこないのではないのでしょうか？そもそも「保存」という表現そのものがあまり身近ではありませんね。しかし、実は私たちの普段の生活において「保存」は普通に行っていることです。例えば洋服を考えてみましょう。シーズン毎に冬用と夏用を取り出したりしまったりしていますよね。この場合「収納」＝「保存」と言えます。版画の保存もそれと全く同じことで、何も特別なことではないのです。

何の為に保存するのか

洋服の場合、次のシーズンに快適に「着用」する為に「収納（保存）」します。版画の場合も同じで、「快適な活用」をするために「保存」するのです。この場合の「活用」は鑑賞であったり、展示であったり、販売であったりと、いろいろなことが考えられますが、基本はどれも同じ。よい状態を保つことで「快適な活用」を行えるのです。

一工夫で長持ちする

洋服を収納する場合、防虫剤とか乾燥剤とかを入れるといったちょっとした一工夫をします。版画の保存も全く同じで、完全なる版画の保存は大変困難ですが、ちょっとした一工夫がよい保存状態を持続できるコツになるのです。今回はその「ちょっとした一工夫」のお話をいたしました。これで皆さんの大切な版画作品の保存にちょっとでもお役にたてたら幸いに存じます。●



Part 2

Is Your Print Collection Safe?

Easy and Practical Ways of Preserving Your Prints

Hiroshi Yamaoka

Foreword

“How can I preserve my prints efficiently?” People often ask me this question and each time I realize that I am not being able to answer promptly, saying only “Let me see....” It is, indeed, not easy to explain how to preserve prints in just one word.

More than understanding the preservation techniques, what is essential for us is “to decide our preservation policy.” Without deciding our policy, we can’t choose what techniques we will use. In other words, we have to understand our real purposes for preserving prints: why do we preserve them?; how much budget do we have?; how long do we want our prints to last?; in what degree of quality?; who will handle the works over time?; what kind of storage environment is best?; how often will they be exhibited?; what kind of environment will the exhibition venues have?; etc. Without examining all these factors, we can’t set the appropriate ways to preserve them.

Another important point is to understand that there is no “perfect preservation method.” Even though prints are placed in an ideal environment, they are destined to deteriorate gradually. In theory, if we improve the preservation environment, the speed of deterioration will be slower; however, there is no “perfect” approach at all. In this way, improving the environment is just like buying insurance. It is important to remember this.

Within our limited resources, how can we get the best conditions?

In our actual situation, we all have to deal with our given circumstances, which may be far from ideal when considering how much budget we have, how many people are available to help us, and how much time can we spend. What can we do?

Ranking

One efficient way is to make a ranking among your works according to some priority. Then, allot a budget for each group in the order of the ranking. Even though you can’t protect all your prints evenly, you can give sufficient care the most important groups.

How to rank your collection?

In reality, it is not easy to rank a large collection of prints. In this case ask yourself the following question: if some disastrous event, such as an earthquake, fire or flood, should occur, which prints do I want to save for sure?

If you are a collector, you may want to rescue your most favorite works, or the most expensive or rare works. If you are an artist, certainly you must rescue your most representative works and the ones you exhibit in your major shows. Let's look at our collection in the light of the courses of deterioration.

Three preservation principles

There are three factors which determine the life of paper in general and prints in particular: materials used; techniques employed; and the preservation environment. These three are all equally important; however, when we have completed making our prints, or have finished prints on our hands, the only possible thing to improve is the "preservation environment." For that, we have to learn the basic mechanisms of deterioration.

Types of deterioration

There are three types of deterioration: (A) physical deterioration, (B) chemical deterioration, and (C) deterioration from other causes.

(A) Physical deterioration

Physical deterioration means such damage as folds and tears. It is easy to prevent this through careful handling as well as storing them in a safe manner, such as using pH neutral cardboard holders.

(B) Chemical deterioration

Chemical deterioration can be classified into three groups: 1) fading and changing colors caused by light, 2) turning yellow and getting fragile caused by paper's acidification; 3) having brown spots caused by mold and impure substances in the paper.

1) Fading and changing colors cause by light

This is mainly caused by ultraviolet rays. It is, therefore, important to keep prints away from all light. When exhibiting prints, using frames with UV-proof glass or acrylic while keeping them away from windows or fluorescent light will work.

2) Turning yellow and get fragile caused by acidification

Paper's acidification occurs by contact with air pollutants such as nitrogen oxide and sulfuric acidic substances; also, prints are influenced by their adjacent acidic paper or the gas emitted from plywood. Papers changes color to yellow and gets fragile and eventually crumbles. In order to prevent this process from happening, we should use special containers or wrap with some appropriate materials to block these influences.

3) Having brown spots caused by mold and impure substances in the paper

<By mold>

On the surface of paper, various kinds of microbe spores as well as

dust particles from the air stay; sometimes mold spores sprout. These spores form their villages of 2-3mm in diameter, and when they stop growing, they leave brown spots. Mold contains cellulose-dissolving enzymes which weaken the strength of paper. Also, its organic acid component produces saccharine, which in turn, reacts with amino acid to produce melanogen-forming brown spots. In order to prevent this, we should keep the moisture of the room around 55% and store prints in a container wrapped with some appropriate materials.

<By impure substances>

Other brown spots are made by the rust in the paper or by the deterioration of some inherent impurities. The countermeasure for this is the same as above.

(C) Other causes for deterioration

<Adhesive tape>

When you use an adhesive tape for attaching the print to something, the taped part will get yellow quickly. The countermeasure is not to put adhesive tape directly on the print. Instead, fit the prints into corner pockets or with hinges made of hand-made paper, and use water-base glue.

<Harmful insects>

Damage caused by insects such as cockroaches and silverfish is not rare. The countermeasure is to conduct a regular inspection and cleaning regimen. Here also, putting artwork in a container or wrapping with appropriate paper is effective.

From now, I will introduce some practical ways to preserve and display your collection.



▲ Mr. Steiner introducing Mr. Yamaoka to the crowd.

Practical ways to improve the preservation environment: introduction to the Book-mat storage system

1. Grouping

First, classify your prints by size and technique. Make groups for each of the sizes.

2. Put them into folders

Choose an appropriate folder style depending on their sizes and techniques. There are mainly three kinds of folders: envelops made of pH neutral (alkaline-sized) paper, one-fold folders made of pH neutral paper; and wrapping-style folders made of pH neutral paper. When your print has a delicate surface, cover it with neutral tissue before putting into a folder. For their efficient retrieval, writing a registration number on the folder is very useful.

3. Store the folders in pH neutral storage boxes.

Put several folders into the same conservation box. For easy retrieval, again writing a registration number on the box is highly recommended.

4. Place the boxes on storage shelves.

In Japan, because of its high humidity climate, wooden shelves have been used traditionally for storing things. But recently some wooden products are found to produce acidic gas, so we have to pay close attention to the quality of wood. But this is often too difficult for average collectors. Therefore, I recommend using metal-mesh shelves. By laying a pH neutral cardboard on each shelf as a cushion, and also moisture controlling paper, almost the ideal environment is created.

5. Preparing for an exhibition: Book-mats

When you have an exhibition, take the work you decided to exhibit out from the storage box and put it in a book-mat. These are like the usual mats, but made from pH neutral mat board with a window cut out to show the artwork. It is hinged to a backing to which the art work can be attached using photo corner covers or special pH neutral adhesive tape. The thicker the mat used for a book-mat, the more preservation safety is assured.

6. Framing

Put the book-mat into a frame that has glass or acrylic with ultra-violet cutting ability.

7. After the exhibition

When the exhibition is over, take it out of the frame and store it in the storage box as it is, without separating the work from the book-mat.

□ Points to Remember □

In the above-mentioned methods, if you can standardize the size of the book-mats and storage boxes, you can also standardize frames and reduce the number needed through artwork rotation, hence more economical. Also, the storage shelves will be used more neatly. In addition, if you can use a computer database system to categorize your collection, you can retrieve a certain work without touching others, thereby saving them from having physical deterioration. I strongly recommend using this simple and efficient book-mat storage system.

What is "Preservation of Prints?"

The words "preservation of prints" may not click in your mind. The word "preservation" itself is not a familiar word, either. However, in our daily life, we preserve things frequently. Take clothing as an example. We change our clothes season by season, and store them in a closet when the season is finished. In this case, "store" equals "preserve." Preservation of prints is the same as this. There is nothing special about it.

Why preserve?

In the case of clothing, we store (preserve) them so that we can wear them in good condition next year. So with prints: we preserve them so that we can "use" them whenever we want, in good condition. In this case, "use" could be "to exhibit," "to look at," "to sell," and so on. The principle is always the same: if we preserve them in a good environment, we can use them in a good condition.

Minimum care, long life

When we store clothes, we usually put mothballs or a desiccating agent in the storage case. Such minimum care can keep them in good condition. It is the same for prints. Providing prints in the perfect storage environment is almost impossible, but giving minimum care can improve that environment.

In this article, I have talked about these actions you can give to your print collection. I hope this will help you to preserve your precious prints much longer in much better conditions.



[Series: The World of Prints]
Rough Cuts in Odd Places

Michael Dörrer

連載[木版画の世界]
異分野のアーティストによる木版画
ミヒャエル・デラ

In the last instalments we looked into the history of woodcuts in Europe. There, all started when woodblock printing was the only printing technique available (ca. 1450 – 1550). Then etchings dominated the graphic arts in general and book illustrations in particular for many centuries, while woodcuts were relegated to lowly tasks like printing playing cards or illustrating chap books. Next came a technical revolution which replaced all manually executed reproductions: photography and offset printing. Thus both woodcuts and etchings became obsolete as far as practical purposes were concerned. We all know that ancient languages, or outdated means of locomotion or warfare were not completely abandoned but passed into a different realm: Latin, or 11th century Japanese became scholarly or leisurely pursuits, horse riding and archery are continued as sports. Something similar happened to woodblock printing: it became a means of artistic expression, as one technique among many others. Today, it is carried on at a number of different levels: amateurs from all walks of life print whatever they fancy, graphic designers put relief prints to use occasionally, many artists dedicate their work exclusively to woodcuts and some up-market artists include woodcuts into their body of work.

Carving flowers, zodiac signs, gentle landscapes or romantic vistas as a pastime might make the resulting prints look timeless; but high-end art is part of the prevailing zeitgeist which at any given time is split up in various -isms, and keeps changing on top of it. Not surprisingly, woodcuts then bear witness of the artistic

movement their authors adhere to. Let us have a look at the oeuvre of some of the most outstanding modern artists, Europeans as well as Americans.

The Spanish sculptor Eduardo Chillida (1924 - 2002), well known for his huge abstract wrought iron sculptures, uses a similarly bold approach to printing: simple black shapes on white paper. (Fig. 1)

前の連載では、ヨーロッパにおける木版画の歴史について概観しました。それは木版が唯一の印刷技術であった時代（1450 - 1550）に始まります。その後エッチングがグラフィック・アートの分野で支配的となり、何世紀にもわたり本の挿絵に用いられました。一方で木版画は遊技用のカードや安価な本の挿絵といった低級な仕事に追いやられていきました。さらに技術革新が起こると、手仕事によって複製されていたものはすべて、写真やオフセット印刷などの技術にとって代えられました。その結果、木版画もエッチングも実用的な印刷としては時代遅れとなりました。しかし、言語、乗り物、武術といったものは、完全にすたれてしまうわけではなく、本来とは違ったあり方で存続していくことは私達のよく知るところです。たとえばラテン語や平安時代のかな文字は、学門や趣味的な研究対象となっていますし、乗馬やアーチェリーはスポーツとして受け継がれています。木版画も同様です。木版画は芸術表現の手段として、数ある技法のひとつとして生き残ってきました。現代の木版画のレベルは多種多様です。さまざまなレベルのアマチュア者たちによる自由な作品もあれば、グラフィック・デザイナーが木版画を使う場合もあります。

多くの木版画作家は木版画のみに専心していますが、作品の主要部分に木版画を使って高級品を作っている芸術家もいます。

花や十二宮図、美しい風景、娯楽的でロマンティックなシーンなどを彫った作品はいつの時代にも受け入れられます。しかし高尚な芸術作品は、時代精神を反映し、一定の期間を経て様々な主義（イズム）へと分裂していき、たえず変化するものです。木版画の場合も当然、作家が支持する芸術運動の影響が作品に反映されます。それではこれから欧米の著名な現代作家の作品を観ていくことにしましょう。

スペインの彫刻家、エドワルド・チリダ（1924-2002）は、錬鉄を使った巨大な抽象の彫刻で有名ですが、版画にも同様に大胆な手法を用いています。白い紙に単純な黒の形で表現しています。(Fig. 1)

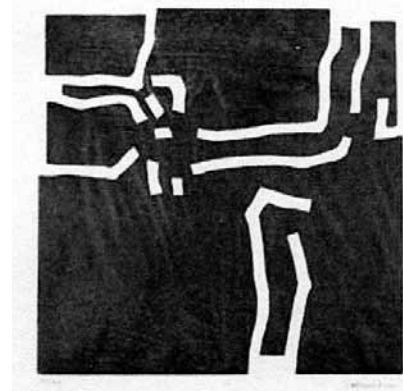


Fig. 1

American Donald Judd (1928-1994), predominantly known for his minimalist sculptures, has produced quite a number of woodcut portfolios in the same vein: squares and rectangles, lines and shapes, open and closed spaces – pure and unadorned by meaning or purpose, which is what art was to him. (Fig. 2)

アメリカのドナルド・ジャッド (1928-1994) は、ミニマリストの彫刻家として広く知られています。彼は同じ傾向の木版画のポートフォリオを数多く制作しています。四角と長方形、線と形、開かれた空間と閉じられた空間、意味や目的などに汚されないピュアーな形、それが彼にとっての芸術なのです。(Fig. 2)

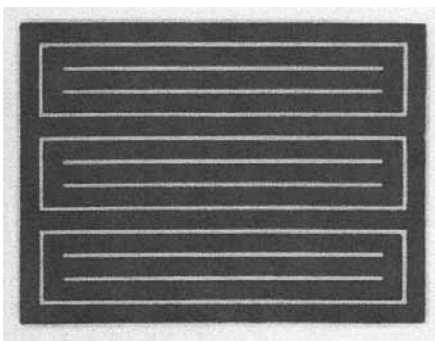


Fig. 2

Works by Helen Frankenthaler (born 1928) are abstract as well, but on the painterly, poetic side. It is a pity to reproduce her work here in black-and-white, as her works are multicolored, consisting of many layers of subtly changing hues and structures – and they are not recognizable as woodblock prints. (Fig. 3)

She is worth mentioning in this context though, as she engendered controversy over the way her woodcut prints came –and still come– about: while working in Japan in the mid-80s she started to hand her paintings over to local artisans who employ the age-old Japanese printing technique using waterbased ink to recreate all the subtleties of the watercolor originals.

ヘレン・フランケンサーラーの作品は抽象的でありながら、絵画的で詩的な側面も併せもっています。多色摺りの彼女の作品は、微妙に違う色合いを重層的に積み重ねてあるため、木版画とはすぐには分かりません。本誌はモノクロームなのでその色合いが紹介できなくて残念です。(Fig. 3)

彼女の作品がここで取り上げられる価値は十分ありますが、木版画制作の方法には、多分に議論の余地があるでしょう。というのは、80年代中頃に日本で制作活動を行っていた頃から今日に至るまで、作品の摺りはすべて日本の摺り師にゆだねているからです。作品の水彩の微妙な部分はすべて、摺り師によるものです。

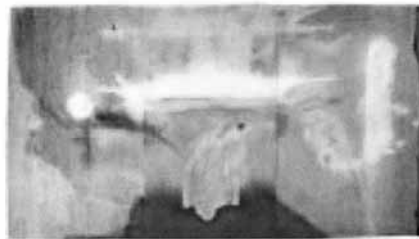


Fig. 3

ミニマルアートや抽象表現が好きでない人も、ロイ・リヒテンスタイン (1923-1997) ならどうでしょう。ポップ・アーティストとしての彼はよく知られています。漫画を風刺的にパネル画へと転写した作品は有名ですが、リヒテンスタインはそれだけでなく、いろいろな作品を利用して、「リヒテンスタインの作品」に仕上げてしまいます。(Fig. 4)

アレックス・カツツ (1927-) は、トレードマークとなっている詩的なスタイルのポートレートを多く制作している人気作家ですが、木版画や他の技法を用いた印象的な版画もいくつか制作しています。彼のスタイルはなんら議論を呼ぶようなものではないので、モダニストの強硬派から冷笑されることがありますが、それによって一流のアメリカ人アーティストとしての人気や地位が損なわれるほどのことはありません。(Fig. 5)



Fig. 4

If minimalist or abstract art is not to your liking, how about Roy Lichtenstein (1923 – 1997)? You know him well as the pop-artist, but he not only transformed panels from comic strips ironically, but also borrowed other styles transforming them into unmistakable “Lichtensteins”: (Fig. 4)

Alex Katz (born 1927), author of many very popular portraits in his trademark poetic style, did a few impressive woodcuts. His style is not controversial in any way, so he might be scorned by modernist hardliners, which does not diminish his popularity or his standing as a leading modern American artist. (Fig. 5)



Fig. 5

While all these works are portfolios, i.e. coming in limited editions and available from commercial galleries around Europe and the US, some outstanding German artists combine printing and painting. This way each work is unique, apart from the fact that the mural proportions of some make them unfit for multiple reproduction. Anselm Kiefer (born 1945), sculptor, painter and printer, never made editions, but woodcuts are central to his prolific oeuvre. He quotes historical topics (mostly concerning Germany) and mythology from the epics of Gilgamesh, the Bible, Nordic legends and Wagnerian operas. Monumental black prints (usually 3 by 3 meters and more) partially painted over and furnished with explanatory titles, are his trademark. In fact, the painted-in titles of historic battlegrounds, tragic heroines or mythical characters do not help us very much to understand – but they enhance the impression of tragic romanticism.

Some works like “Ways of World Wisdom” are made up of many single plates which partially turn up in other works again, re-grouped and painted over in a different way. So, the inherent possibility to reuse the printing blocks for new arrangements is exploited in a novel way: to serially produce unique works. (Fig. 6)

これらの作家の作品はすべて、限定版のポ-トフォリオとして、欧米の商業的ギャラリー-で手に入れることができます。一方で版画と絵画をミックスさせて作品を制作する優れたドイツのアーティスト達もいます。作品の中には壁面との兼ね合いで、大量の複製には適さないものもありますが、それぞれの作品には独自性があります。アンゼ-ルム・キーファー(1945-)は、彫刻家であり、画家であり、版画家でもあります。活動の中心はあくまでも木版画です。版画に限定番号を入れることはありません。歴史的逸話(ドイツ史が中心)、ギルガメシュ叙事詩、聖書、北欧ゲルマン系民族の伝説、ワーグナーのオペラなどから題材を得ています。

3メ-トル四方を上回る巨大な黒摺りの版画にペインティングが部分的に施された作品と説明的タイトルが、彼のトレードマークです。歴史的戦場や、悲劇のヒロイン、神話の神々などといったタイトルがペイントされてはいますが、それらはあまり作品の理解を助けることにはなりません。しかし悲劇的ロマンティシズムを強調する効果を発揮しています。作品「世界の知恵のありかた」は、いくつかの単一のプレートからなっていますので、その一部を取り出して、他の作品に転用したり、グループ化したり、違った方法でペイントすることができます。版木を再利用して新しい組み合わせを作り出すという版画のもつ可能性が、ここでは新奇な方法で発揮されているわけです。この方法を用いて、ユニークな作品のシリーズを作ることが可能です。(Fig. 6)

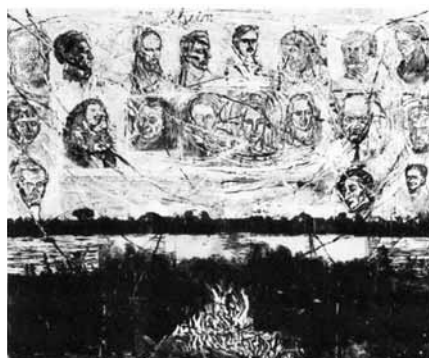


Fig. 6

Three more German artists (printers as well as painters and sculptors) are worth mentioning: Georg Baselitz (born 1938) (Fig. 7) and A.R. Penck (born 1945) (Fig. 8). Their woodblock prints are as difficult to understand as those of Kiefer, if not more so. Suffice it to say that both share one more German predilection: rough black and white prints printed from whatever piece of wood is available. Another outstanding printer, Joerg Immendorff (born 1945) (Fig. 9) also carved a few woodplates, but usually does wall size linoleum cuts fraught with historical allusions. All three artists understand themselves as very critical commentators of their times and society.

ここでさらに注目すべきドイツ人のアーティスト(版画家、画家、彫刻家)を三人紹介しましょう。ゲオルク・パーゼリツ(1938-)(Fig. 7)とA. R. ベンク(1945-)(Fig. 8)の木版画は、キーファーの作品と同様、難解です。二人ともドイツの特徴を備えていると言えば充分でしょう。つまり、版木の材質にこだわらない、荒削りの白黒作品です。もう一人はイエルク・イッメンドルフ(1945-)、木版を使った作品も数点ありますが、通常は壁面大のリノリウムに、歴史的故事を題材にしたモチーフを彫っています。三人のアーティストは共に、現代社会に対する厳しい論評者として自らを位置づけています。(Fig. 9)



Fig. 7



Fig. 8



Fig. 9

Let us finish on a more conciliatory note. In the 80s, in Italy there emerged a hugely successful group of painters (all born around 1950), who named themselves Transavanguardia. They were and still are painters and printers, but only two of them include the technique of woodblock printing in his works. In Sandro Chia's prints, colors abound, and angst or politics do not enter his Mediterranean realm of art. Technically, his works are a pastiche of printing, painting and mounted shapes. (Fig. 10)

最後にもう少し一般受けする作品を紹介することにしましょう。80年代、イタリアでトランスアバングアルディアと自称する画家集団(全員1950年前後の生まれ)が現われ、大成功しました。当時から今日に至るまで、トランスアバングアルディアは、画家と版画家からなる集団ですが、版画技法を作品に取り入れている作家はたった二人しかいません。サンドロ・キアの版画は、色彩に溢れ、彼の地中海的芸術の世界には、苦悩や政治などがはいりこむ余地はありません。技術的には、彼の作品は版画と絵画と額装の合成作と言えるでしょう。(Fig. 10)



Fig. 10

My personal favorite is Mimmo Paladino, who combines a range of printing techniques within a single sheet, relief printing among others. His work is to me modern and accessible, reasonably enigmatic but touchingly simple, pleasant to look at but not too plain either. (Fig. 11)

ミットモ・パラディーノは私の好みの作家です。一枚のシートに、木版やさまざまな版画技法を併用しています。彼の作品は、現代的で受け入れやすく、適度に謎めいていながら感動的なほどシンプル、目を楽しませるけれども単純ではありません。(Fig. 11)



Fig.11

To sum it up: Contemporary artists are certainly not concerned with beauty – perhaps with purity and harmony (Chillida, Judd, Frankenthaler). Other movements draw their strength from revolt and provocation (Penck, Immendorff, Baselitz). Enigmatic portrayals of history and existence always have a dark charm – but they are hard to understand (Anselm Kiefer). Easiest to follow are artists with a humorous or a gentler bend (Lichtenstein; Katz, Chia, Paladino), as they are readily accessible and there seems little need for interpretation or digging through various layers of meaning.

So, in a way, all these artists' works are symptomatic for today's position of woodcuts in the art world: xylography is used as one technique among many others to express the artist's feelings, ideals, convictions or attitudes towards time and society. 🏠

以上を要約すると、現代作家は「美を表現すること」には関心がないということです。純粋性や調和といったものに関心を示している作家は、チリダ、ジャッド、フランケンサーラー。反抗や怒りが原動力となっている作家は、ペンク、イम्मENDORFF、パーゼリツ。歴史や存在の謎めいた描写は常に暗黒的な魅力がありますが、理解は容易ではありません。その代表的な作家がアンゼルス・キーファーです。最も分かりやすいのが、リヒテンシュタイン、カツ、キア、パラディーノといったユーモラスな作品や穏やかな傾向の作品を作っている作家でしょう。彼らの作品は容易に受け入れられ、解釈の必要もほとんどいらず、いくつにも積み重ねられた意図をひとつ、ひとつ掘り起こす必要もないからです。

これらのアーティストの作品はすべて、ア-トの世界における今日の木版画のポジションを表わしていると言えるでしょう。木版画はアーティストの感情、理想、信念、時代観や社会観を表現するための、数ある表現手段の一つなのです。 🌐

Monologue of an insect

Shigemi Yamagishi

虫の独り言

山岸 茂美

One evening in late summer I was heading towards the KIWA president's house. We will have our monthly meeting.

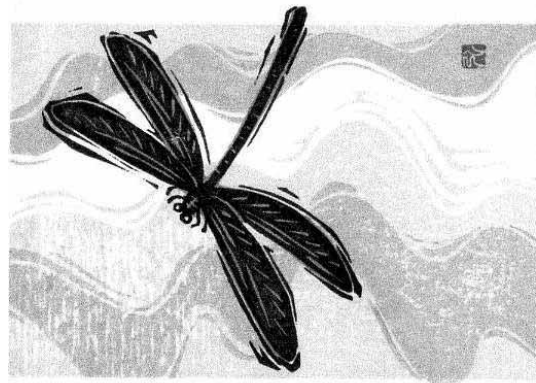
When I opened my ears, I could hear the slight sounds of insects singing. Just as autumn is approaching little by little, we are also approaching the 5th KIWA show.

While the topics are being discussed one by one, we often pause "Well..." or "Let's see..." and end up realizing anew our financial difficulties. However, this time one person came up with an idea to produce some KIWA goods as a means to raise funds. As a result, we decided to embark on a Facial-oil Removing Paper Project. (See box below.)

We will make original woodprints for the covers of the ready-made, high-quality facial-oil removing paper packages, which we can get at wholesale prices through one of our members. The Facial-oil Removing Paper cover will be beautiful to see and keep, the paper itself will make women more beautiful and KIWA will be richer by selling it! It will be a triple win-win condition. Since most of our executive members are women, the green light was lit on the spot: "Let's do it!"

Yet, there are so many more things to be done for the next exhibition. All of us are busy working at our own individual jobs. Nevertheless, we are trying hard to make this coming show successful. I am always impressed by the members' enthusiasm and encouraged.

I can hear another murmuring: More men, please. This is a monologue of an insect.



お盆も終わったある日、会長宅へと向かう。そう、今日はKIWA会議の日である。耳を澄ませばかすかに虫の声。ほんの少し秋を感じつつ、私たちもKIWA展に向けて少しずつ動き始めた。ひとつずつ議題をすすめていくうちに、毎回のことだが、「ん……？」行き着くところは資金不足。「う-ん」、「……」。そこでKIWAグッズを作ろうという話が持ち上がり、少しでも資金の足しになればと今回始めるのが「油取り紙プロジェクト」。KIWAメンバーの作家による手摺りの木版画が付いて、しかも女性がきれいになる？そして運営費も稼げる！「なんと、一石二鳥やないか！」スタッフがほぼ女性ということもあり、即「決定！」。でも解決すべき課題はまだまだ山積み。それでもみんな仕事もあって大変なのにながらんでいる。すごい！私もがんばるぞ~。でもあと少し男性スタッフが増えると心強いのだが…。これは虫の独り言である。

◆高級油取紙◆ KIWA 特製 オリジナル手摺り木版画付き 30枚入り：定価 350円（税込み）

KIWA's Special Project: Facial-oil Removing Paper. Each pack with an Original Woodblock Print

注文先 Contact: Fax 075-702-1726



●さっぱりシリーズ 大矢礼子
"Uncle SAPPARI" Series:
designed by Reiko Oya



●ほんわかシリーズ 佐竹美紀
"Light and Fuzzy" Series
designed by Miki Satake



●美女仙紙シリーズ 服部かおり
"Beauty-up Series"
designed by Kaori Hattori

各4種類ずつ Four Original Designs in each series, 12 prints (9cm x 7cm) altogether. 350 yen per pack.

Review of KIWA Events

2年間の取り組み：KIWA イベント

KIWA最大のイベント、第5回KIWA展に向けて、今春より私たちは具体的な準備を開始しました。これからがいよいよ本番、気が引き締まる思いです。でも過去二年間は余裕のあるスケジュールで、勉強会やバスツアーなど、春と秋のイベントを充実させてきました。その2年間のとりくみについて、ここに概略を記します。KIWA オフィスでは月に一度、定例会を開き、活動内容について検討しています。皆さんも是非一度、ご参加ください。

2004年春（4月29日）

勉強会 <作品の保存法 その1>：中野修氏

中野修氏は、当時、静岡県にあります特種製紙株式会社で長い間、紙の研究に携わっておられました。当協会の依頼に応じ、静岡県からはるばる駆けつけて下さり、紙の選び方から保存の仕方まで、大変有益なお話を聞かせていただきました。（特集記事を参照してください）

2004年秋（11月23日）

勉強会 <作品の保存法 その2>：山岡寛氏

中野氏とも大変親しくされている山岡寛氏は、京都で資料保存工房を設立し、美術館や作家たちに紙の保存環境を提案されつつ、材料などを提供されています。氏の講演はとても実践的で、参加者は具体的な作品管理方法など、貴重な情報を得ました。（特集記事を参照してください）

金刀比羅宮バスツアー（12月5日）

晩秋の一日、四国の金刀比羅宮へ日帰りで親睦バスツアーを催しました。金刀比羅宮は2004年に、33年に1度の大遷座祭を斎行、それを記念し、数々の宝物が125年ぶりに一般公開されました。奥書院を飾る伊藤若沖の「花丸図」や、円山応挙最盛期の障壁画90面（重文）が並ぶ表書院など、すばらしい絵画、建築に目を見張りました。前日までお天気が心配でしたが、当日は快晴、道中のバスのなかから暮れゆく秋の紅葉も楽しみ、讃岐うどんにも舌鼓を打ちました。



▲ Two beauties climbing Kompira's 1,368 steps.

In 2004, 2005 and 2006, KIWA has been as active as always with its Spring and Fall events while preparing for the next, 5th exhibition in spring of 2007.

Spring, 2004

Paper Preservation I: Osamu Nakano

The first of two talks on lengthening the lifetime of paper. Mr. Nakano is chief of the Research and Advisory Department of Tokushu Special Paper Company, Shizuoka City, where he has worked for 40 years. He has invented moisture-control and pH neutral papers as well as applied for over 70 patents. The Japanese Ministry of Education awarded him in 2003 for his work.

His presentation was fascinating and too short. About 50 members and friends attended. A modified text of his talk is featured in this issue.



▲ Mr. Steiner and Mr. Nakano enjoy talking at the party afterwards.

Fall, 2004: I

Paper Preservation II: Hiroshi Yamaoka

Mr. Yamaoka, a student of Mr. Osamu Nakano, picked up where Mr. Nakano had left off to go further into paper preservation. He demonstrated many papers that are used to protect prints, books and documents from insects and moisture, the two foes of fibers. Every guest, about 40 altogether, received samples of papers for making archiving boxes, interlacing between prints, and special matt boards. His talk has been summarized in this issue.

Fall, 2004: II

Trip to the Distant Past

As a special treat for local KIWA members, we rented a bus and spent a day on the island of Shikoku visiting the Kompira Shrine. Celebrating the completion of the once-in-33-years major repair work this year, the Kompira Shrine opened their hidden buildings and treasures again to the public after 125 years, which included gorgeous paintings by Okyo Maruyama and Jakuchu Ito, the most representative painters of Edo period (1603-1867). This shrine and its god, though located high on a mountain, is the patron saint of sailors and seamen. Because of this special showing, there were thousands of visitors forming endlessly long lines to see the various treasures. Nevertheless, the weather was fine and we all greatly enjoyed ourselves. The bus ride both ways was smooth, making it easy to sleep most of the time.

2005年春(5月15日)

勉強会<浮世絵木版画の技術を今に伝える>：竹中健司氏

新緑の美しい5月の一、八幡市の松花堂庭園にて、竹中健司氏より浮世絵木版画の技法についてお話をして頂きました。竹中健司氏は摺り師の家系に生まれ、若い時から父竹中清八氏の下で研鑽を積み、技の継承と保存に精励されています。家業の竹中木版は明治13年創業。竹中氏は平成10年に「竹笹堂」を開設し、国際的にも広く活躍されています。

当日は、寛永の三筆と呼ばれた松花堂昭乗ゆかりの素晴らしい庭園を散策。お弁当を頂いた後、竹中氏に実物を交えながら木版画の技法について講演して頂きました。熟練の彫り師や摺り師の方々、若い世代の職人さんたちもたくさん参加して下さり、いろいろな角度から興味深いお話を聞かせて頂きました。熱のこもった皆さんのお話に、木版画の伝統が若い世代に着実に継承されていることを実感し、大変頼もしく思いました。特に若い女性たちががんばっておられることが印象的でした。



▲ ベテランの彫り師の説明に聞き入る参加者たち

2005年秋(11月27日)

伊勢へ親睦バスツアー

猿田彦神社、小坂美術館において、ドイツの作家ウルズラ・フトさんの現代ガラスの展覧会が開催されるのを知り、伊勢ツアーを企画。猿田彦神社では、第5回KIWA展の成功と会員の健康を祈願し、特別ご祈禱をして頂きました。また宮司の宇治土公貞明様が自ら美術館を案内して下さり、ウルズラ・フトさんの美しい色合いのガラス作品の数々や、美術館の壁に設置された珍しいからくり人形のオルゴールなどを鑑賞させて頂きました。その後、伊勢神宮内宮を参拝。日本文化のルールと現代美術に触れる充実した一日でした。

2006年春(4月29日)

勉強会 <篆刻教室>：鈴木掃石氏

作品には落款がつきもの 書家の鈴木掃石先生をお招きし、篆刻の手ほどきをして頂きました。自由な発想で、自分らしい作品をと、いつも楽しく指導して下さる掃石先生の篆刻教室もこれで3回目。刀で彫るのは木版画と同じだけれど、石に彫るのは数段難しい。わき目もふらずにあっという間に過ぎた3時間、各自ステキなはんこを持って帰りました。●

Spring, 2005: May 15th

Shokado Art Garden and History Talk: Kenji Takenaka

On the most pleasant spring day, KIWA members and friends took trains, cars and buses to Yahata City, between Kyoto and Osaka. We met at a large and rare garden which once was the meeting venue for literati and artists in the last century. Today, it is famed for the old, original buildings it preserves as well as its extensive bamboo groves (Edison got his bamboo sliver to use in his first light bulb here) and the largest camellia garden in Japan.

We took a guided walking tour with the director thru the groves and gardens. After lunch, Kenji Takenaka, a professional woodblock printer, gave us a full and rich talk and demonstration on ukiyo-e carving and printing tools and techniques. We saw many prints from the Edo period up to the present. Mr. Takenaka's studio is working to preserve the woodblock traditions by training young people to become professionals. (The same can be said for Mr. Keizo Sato's studio in Gion Ward, Kyoto, and for Mr. Masao Ido's workshops in Kyoto and north Japan, where young men and women are seriously carrying on the time-honored techniques while at the same time trying out new ideas.)

Fall, 2005: November 27

Blessing for Success

Visit to Ise Shrine and the nearby Sarutohiko shrine and its Shoha Museum in Wakayama Prefecture. KIWA had made arrangements beforehand to receive special blessings from the chief priest of Sarutohiko Shrine to assure the success of the 5th KIWA Exhibition. President of KIWA, Mr. Steiner, represented all the KIWA members as well as the artists who send in their prints for the exhibition and offered a sacred pine branch to the altar. After lunch, we all walk over to the imperial shrine which is undergoing one of its rebuilding tasks. Every 20 years, since the beginning of the world, this shrine has been taken apart and rebuild on the adjacent plot. Its goddess is Amaterasu, one original goddesses of Japan.



▲ Preparing to meet the Japanese gods.

Spring, 2006: April 29

Making Our Own Unique Seals

Once again, KIWA invited Mr. Soseki Suzuki to come and show us how to carve the small stone seals so necessary in the Orient. Mr Suzuki is a calligraphy teacher and long-time friend of KIWA. This was his third demonstration for us. The event was held in the Community House and was very well attended. ●

KIWA 事務局を訪れた作家たち VISITORS TO KIWA

・ ジョルジ・ コレヴ氏

ジョルジ・コレヴ氏は、2004年4月に美しい奥さんとともに事務局を訪れました。前年、日本・ベルギー版画展のために来日した氏は、今回ベルギーの作家たちとともに東京での表彰式に列席しました。氏が主催しているレッセドラ・ミニプリント展の情報はこちらで。www.lessedra.com

・ エイプリル・ ヴォルミア女史

エイプリル女史は、2004年4月に、夫ジョン氏とともにKIWA事務局を訪れ、夕刻からスタイナー木版画教室で自身の作品を披露してくれました。淡路島の永沢アートパーク・パイロット事業、アーティスト・イン・レジデンスに参加するために今回、初来日。彼女の最新作はwww.aprilvollmer.com/hanganew.html をご参照ください。

・ マイク・ ライオン氏

ライオン氏は、日本での初個展のオープニングに出席するために、両親と奥さんを連れて来日。偶然、エイプリル女史と同じ日にKIWA事務局を訪れ、一同、大いに話に花が咲きました。氏は自ら編み出した木版画技法を使って、独自の繊細で写実的な作風を確立しています。彼の京都での個展は盛会のうちに幕を閉じました。www.mikelyon@mlyon.com をご参照ください。

・ グラム・ ショール氏

グラム・ショール氏は奥さんのマーニと2004年4月に、KIWA事務局を訪れ、2日間をともに過ごし、さらに越前の和紙の工房へ見学に行きました。ピクトリア在住のショール氏は、毎年自宅でワークショップを開催。KIWA会長のスタイナーを2005年6月に講師に招いてくださいました。

www.woodblock.info をご参照ください。

・ メアリー・ ブロッドベック女史

ブロッドベック女史は、KIWAの会員。2005年10月に事務局を訪れコレクションを閲覧しました。女史はアメリカ、ミシガン州で割先進的な役を担う木版画家。女史の作品は、www.marybrodbeck.com をご参照ください。

・ マクレインズ 版画材料店

アメリカ、オレゴン州にあるアメリカ最大の木版画材料店マクレインズのオーナー、プレントイス夫妻が2005年の秋にKIWA オフィスを訪れ、スタイナー氏が推薦する水彩絵具をテストしました。マクレインズは常に新しい版画材料、道具、テクニックに目をむけ、世界の版画家に提供しています。お店の詳細は



▲ Alex with two Richards.

www.mcclains.com をご覧ください。🌐

・ Georgi Kolev

Georgi Kolev and his beautiful wife visited the office in April, 2004. He had come to Japan the previous year to attend the Japan/Bulgaria Print Exhibition, and was in the country this time with some Bulgarian artists for an award ceremony in Tokyo. He traveled up to Kyoto to see the sights and to look into KIWA's office. Get information on upcoming Lessedra World Mini Print exhibitions here:

www.lessedra.com

・ April Vollmer

April Vollmer and her husband, John, not only visited our office in October, 2004, but also gave a talk and demonstration for the Steiner Print Workshop in the evening. The students were fascinated by her print vision and asked many questions. April was in Japan for the very first time, to participate in the Nagasawa Art Park program on Awaji Island. See April's latest prints at:

www.aprilvollmer.com/hanganew.html

・ Mike Lyon

Mike Lyon, his father and mother and wife, were in Kyoto to attend the opening of his first exhibition in Japan. By coincidence, he and April visited KIWA's office at the same time. You can easily imagine the content of our endless conversation. Mike has evolved his own way to make woodblock prints, resulting in effects not obtainable with any other technique. His exhibition was extremely successful. See his prints here: www.mikelyon@mlyon.com

・ Graham Scholes

Graham Scholes and his invaluable wife, Marnie, spent two days altogether visiting KIWA and a papermaking village in Echizen. Graham offers annual spring workshops open to anyone seriously interested in woodblock printmaking. Mr Steiner conducted one of these workshops in 2005. See that, a new video, and much more here: www.woodblock.info



▲ Fresh air of Echizen.

・ Mary Brodbeck

In October, 2005, Mary Brodbeck, KIWA member and supporter, visited the office to look through some of the prints in the KIWA Collection. She is one of the leading printmakers in Michigan, USA, where KIWA founder Mr Steiner was also born and raised. Contact her here: www.marybrodbeck.com

・ McClain's Print Supplies

Alex and Richard Prentiss, owners of America's largest supplier of woodblock materials, visited KIWA in the fall of 2005. Together, they tested a new line of pigments formulated by Mr. Steiner. McClain's is always exploring for new tools and techniques for printmakers worldwide. See their store and so much more, here: www.mcclains.com 🏪

KIWA LIBRARY ADDITIONS

These are some of the books and gifts which the Library has received since the previous issue of KIWA News.

1. From Aria Komianou, Greece: a boxed set of 12 wood engravings of scenes of Greece originally made by 5 German artists around the 1880s. This set is a recent reissue.
2. From Paul Blazek, USA: First, an excellent book on the British painter L. S. Lowry. Fully documenting the man's life and with over 200 illustrations. And,
3. An original 1963 calendar, cut and printed by the greatest stencil artist Japan ever produced, Keisuke Serizawa (1895-1984). It is in excellent condition and an invaluable addition to the KIWA Collection.
4. From Anonymous: The catalog for the exhibition in America of Blanche Lazzell. She was mostly self-taught, and became the leader of a small group of printmakers in America's northeast.
5. From Michael Dorrer, Germany: Over the years, this great German printmaker has donated many books and his own prints to KIWA. Moving back to Germany after having lived in Japan for many years, he continues to support KIWA in many ways. He has donated the catalog for an exhibition of 100 German Printmakers, an important look at contemporary print art in Europe. (Michael has from the first issue of KIWA News written articles on print history. In this issue, too, you will find his latest article.)
6. From Momoka Minami, Japan: While on a one-year study trip to Italy, she found four Italian-made miniature books. A welcome gift to the miniature book section of the KIWA Collection and its library.
7. From Anonymous: In the same line, KIWA very recently received 20 old miniature books, mostly American-made, some in used condition but still valuable and beautiful. KIWA is building up its collection of miniature books and will cooperate with the opening of a bookstore in Kyoto to be run by KIWA's sister organization, the Kyoto Miniature Book Society.
8. From Aria Komianou, Greece: two books detailing the life and art of printmaker Vasso Leonardou Katraki (1914 – 1998), one of the leading contemporary Greek artists.

KIWA コレクション 寄贈作品・図書

以下の寄贈作品・図書を KIWA コレクションに入れました。

	寄贈者	
1	Aria Komianou	ギリシャの風景を描いた小口木版画 12 枚セット (1880 年代にドイツ人作家 5 人が制作したものの復刻)
2	Paul Blazek	イギリスの画家 L. S. Lowry の画集
3	Paul Blazek	染色作家 芹沢圭介 (1895-1984) のオリジナル・カレンダー (1963 年)
4	匿名	アメリカの木版画家 Blanche Lazzell 展のカタログ
5	Michael Dorre	現代ドイツ版画家百人展のカタログ
6	南百香	イタリアのミニチュア・ブック 4 冊
7	匿名	アメリカのミニチュア・ブック 20 冊
8	Aria Komianou	ギリシャ人を代表する作家 Vasso Leonardou Katraki (1914 – 1998) についての書籍 2 冊

京都国際木版画協会 (KIWA) 会員募集

当協会では、会の活動をサポートして下さる方を募集しています。木版画に興味のある方や、会の活動に賛同していただける方、展覧会の運営に興味のある方、どなたでも大歓迎です。会員には、手摺りのミニ木版画と活動報告や木版画についての情報を掲載した本誌 KIWA NEWS をお送りします。また会員同士の交流にも力をいれています。パーティーや勉強会等、メンバーが自由に発案していける活気ある会にしていきたいと思っています。

【年会費】

個人会員一口 5,000 円 法人会員一口 10,000 円

(郵便振替) 00900 7 311587

お申し込みは奥付の連絡先まで。

KIWA Membership

Membership is open to anyone. If you are interested in art in general, prints especially, and woodblocks in particular, and our activities in this area, you are welcomed to join KIWA. Association memberships are annual; you will be invited to our special events which include exhibitions, lectures and seminars. You will also receive our newsletters and a gift print. Please use International Postal Money Orders when sending payment made out to RICHARD STEINER, KIWA.

【Annual Membership Fee】

Individual: 5,000yen Business: 10,000yen

For further information, please contact KIWA's office.

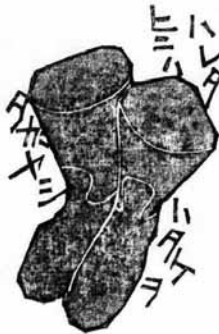
KIWA ニュース第7号の第一回編集会議がおこなわれたのは昨年の9月、それから10ヶ月後、編集がやっと終わろうとする今、ここ京都は梅雨明けを待ちながら祇園祭でにぎわっています。その間、いろいろな方がKIWA ニュースに協力してくださいました。最初に編集を担当してくれた栴田菜々さんは今春、大学を卒業し、今は社会人としてバリバリ働いています。その後を引き継いでくださったのが松村陽子さん。DTPの学校に通いながら、忍耐強く丁寧に版組みをしてくださいました。その二人に先輩としてタイムリーなアドバイスをくださったのが、第5-6合併号の編集長の矢礼子さん。仕事が終わったあと夜遅く集まったり、貴重な週末に集まったりと、何度も何度も編集会議を重ね、ようやく発刊にこぎつけました。その甲斐があつてか、今回は20ページといつもより分量も多く、内容的にも十分読み応えがあるものになりました。

フロントページを飾る楽しいコマ漫画は大矢礼子さんの作。スタイナー扮するナポレオン会長の大膽な発言「不可能という文字はKIWAの辞書にはない」に冷や汗をかいているお馬さんは、もちろん私たちスタッフです。

今、KIWAの事務局には第5回KIWA展への応募作が続々と届いています。さまざまな国の珍しい切手が貼られた筒や封筒 それらを開けるたびに「わー！」「すごい！」と感嘆の声があがります。この瞬間、創った人の思いや息づかいも一緒に解き放たれているからでしょう。作家の思いやそれぞれの文化が反映された作品に直接に触れることのできる喜びはひとしおです。この感激こそが、もしかすると「不可能」を「可能」にさせるスタッフ一同の原動力になっているのかもしれない。

来年はKIWAが発足して10年目。第5回KIWA展に乞うご期待！

(クロベール)



The first meeting we had for this issue was in September last year. Now, ten months later, it is time for us Kyoto dwellers to enjoy the Gion Festival while waiting for the rainy season to finish. During these months, many people contributed to the publication of this newsletter. Ms. Nana Masuda, who was in charge of the page layout at the first stage, graduated from college this spring and now working happily in Osaka. Succeeding Nana, Ms. Yoko Matsumura completed the layout while studying at a DTP school. She patiently and attentively worked on it with us. Ms. Reiko Oya, who was the chief editor for the previous issue, gave these two young women encouraging and clear-sighted advice from time to time. In the evenings after our jobs were finished or during our precious weekends, how many times have we gotten together to have meetings? However, we are finally able to deliver to you this 20-page long issue, 4 pages more than usual, with its good contents.

The joyful cartoon on the front page is also by Ms. Oya. The KIWA president boldly says “There is no word in KIWA’s dictionary for IMPOSSIBLE.” The white-knuckled horse, needless to say, represents us staff members.

Presently, the KIWA office, literally everyday, is receiving prints for the 5th KIWA Show. Every time we open the tubes and packages, many of which are covered with exotic stamps, there are utterances of “Wow!” “Great!”—this is the moment we can sense the thought and life of the artist which traveled along with the prints. It is indeed an unparalleled joy to touch and see the works by serious printmakers from around the world and perceive their messages. This very joy perhaps is serving as a driving force for us to try to make something seemingly impossible, POSSIBLE.

Next year we will celebrate our 10th anniversary and the 5th KIWA Show. Come to see us and the show.

(Qurobe)



発行者：京都国際版画協会（KIWA）

住所 〒606-0816 京都市左京区下鴨松ノ木町 64

電話 075-721-9246

FAX 075-702-1726

E-mail sat-steiner@nifty.com

URL <http://www.kiwa.net>

編集 栴田菜々 松村陽子

大矢礼子 クロベール

翻訳 喜多信恵 スタイナー紀美子

挿絵 村上直子 土井弘子 天野玲子 大矢礼子

発行日 2006年7月

印刷 燈影舎

KIWAの活動（KIWA展、KIWAニュース発行など）は
KIWA会員の皆様の会費および寄付により運営されています。

Publisher: Kyoto International Woodprint Association

Address: 64 Matsunoki-cho, Shimogamo, Sakyo-ku, Kyoto, Japan, 606-0816

Phone: +81-75-721-9246 Fax: +81-75-702-1726

E-mail: rks-rks1@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL: <http://www.kiwa.net>

Editorial Staff: Nana Masuda, Yoko Matsumura
Reiko Oya, Qurobe

Translators: Nobue Kita, Kimiko Steiner

Illustrators: Naoko Murakami, Hiroko Doi, Reiko Amano,
Reiko Oya

Date of publication: July, 2006

Printing company: Toeisha

The KIWA Exhibition and this newspaper are funded wholly by members' fees and donations.